

# 美 楽 舎

B i G a K u S Y a  
News letter

No. 374

会報 第 374号 (令和4年12月発行)

HP: <http://bigakusya.com>  
Mail: [info@bigakusya.com](mailto:info@bigakusya.com)

第 398 回 (11 月) 例会

## 自習

投稿はありませんでした。

## 某日月誌

ぼうじつげっし



○11月某日:「小茂田青樹展」川越市立美へ、行きは本川越駅から、帰りは川越市から池袋へ出た、バスの車窓から蔵造りの街並み(結構続いている)を撮った、平日にしては見物人が多かった。来るのは「雪岱」以来2回目となる。図録は買わず、外に出たら丁度向こうから武者行列がやって来て美術館前に整列した、川越まつりのイベントだ。小茂田は大正から昭和初期の日本画家で41歳の若さで亡くなった、近美蔵の「虫魚画卷」は代表作で好きな作品である。65点の展示だが、常設展にも24点が展示されていた。

○12月某日:「ピカソとその時代」(10月8日~1月22日)洋美へ、珍しく写真OKで、ピカソは変形した顔に注目して撮り、「クレーの宇宙」室の(ピカソに次いで出品が多い)クレー作品はほぼ全部撮った。図録は買わなかったがトートバック(6600円)ほかを買い11500円の散財となった、キャンパス絵画もあったが、欲しいのがなくて残念。

○某日:「銘仙」埼玉県立歴史博へ初めて行く。銘仙とは大

正から昭和初期に流行した平織りの絹織物で、秩父でも生産が盛んだった。色とりどりの着物が並ぶ、最終日でもあり図録は完売していたが、撮影OKなので沢山撮った。5、6年前だったか、どこかの(思い出せない)銘仙展を見に行き図録を買った覚えがある。

○某日:「神坂雪佳」汐留美へ、チラシの「狗兎」をよくよく見たら、ルビンの壺ではないけれど前足が顎に、竹の根元が歯に見えて、大口を開け蝸牛を食べようとしている犬に見える(かわいい子犬が蝸牛に興味深く見ている絵なのだけども)。図録(2200円)には『蝶千種』『百々世草』ほかの図案集の内容絵柄が多く掲載されており参考になり、勿論買った、ほかにも買い計5500円を散財した。推薦文に書いた骨董市で買った図案集とまだ比べてないが、神坂ののではないようだ。細見美(京都)蔵が中心だが、個人蔵も何点もあった。

○某日:「ヴァロットン展」(10月29日~1月29日)三